

5月の安全運転のポイント 平成22年5月号

昨年3月にスタートした高速道路におけるETC搭載車の休日特別割引制度により、連休時を中心に各地で大渋滞が発生しました。そこで今回は、5月のゴールデンウィークの高速道路の事故防止と、円滑かつ安全な交通を確保するカーコミュニケーションについて考えてみました。



昨年の高速道路における渋滞発生状況

各高速道路会社（東日本、中日本、西日本、本州四国連絡）の「ゴールデンウィーク期間における高速道路の交通状況」によると、昨年のゴールデンウィーク（4月25日～5月6日）は、全国で10キロメートル以上の渋滞が414回（一昨年は215回）、30キロメートル以上の渋滞が58回（一昨年は28回）で、一昨年の約2倍となっています。

また、渋滞延長の長かった上位3箇所は、次のとおりです。

【上り線】

	道路名	渋滞日時(ピーク)	渋滞発生箇所	渋滞延長	渋滞要因
1	神戸淡路鳴門道	5月5日(火)19時45分頃	淡路IC付近	68.0km	交通集中
2	東名高速	5月2日(土)7時50分頃	菊川IC付近	54.8km	交通集中及び事故
3	九州道	5月5日(火)18時35分頃	八幡IC付近	50.6km	交通集中及び事故

【下り線】

	道路名	渋滞日時(ピーク)	渋滞発生箇所	渋滞延長	渋滞要因
1	東名高速	5月2日(土)8時00分頃	松岡BS付近	66.4km	交通集中及び事故
2	東北道	5月2日(土)6時50分頃	矢板北PA付近	55.2km	交通集中及び事故
3	関越道	5月3日(日)8時15分頃	花園IC付近	52.6km	交通集中及び事故

今年のゴールデンウィークも昨年と同様の大渋滞が予測されます。具体的な渋滞箇所等の予測については、各高速道路会社や日本道路交通情報センターのホームページに掲載されていますので、これらを参照して、時間に余裕のあるドライブ計画を立てましょう。



高速道路の安全走行のポイント

高速道路を安全に走行するために、特に次の点を心がけましょう。

- ・出発前には、必ず燃料やタイヤなどの車両点検を実施するとともに、長時間の渋滞に備えて携帯トイレを用意しておく。
- ・ETCレーンでは時速20キロ以下の速度に落とすとともに、前車の急停止に備えて十分な車間距離をとって走行する。
- ・本線車道を走行するときも、前車の急停止に対応できるだけの車間距離をとる。
- ・高速道路に不慣れなドライバーも走行しているので、周囲の車の動向にしっかり目を配る。
- ・渋滞に巻き込まれても、脇見をしたり漫然とした運転はせず、前車の動きに注意する。
- ・路肩は緊急車両が走行するところなので、渋滞していても路肩は走行しない。
- ・サービスエリアやパーキングエリアでは徐行して進行するとともに、歩行者の動きにも十分注意する。



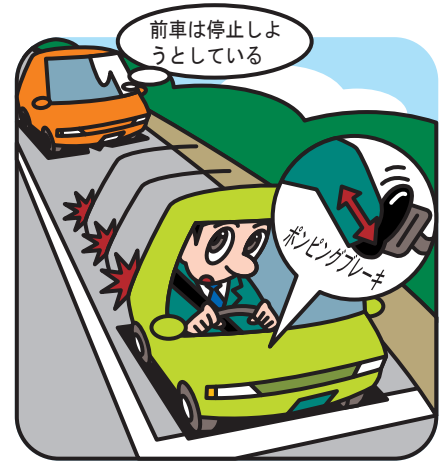
安全確保のためのカーコミュニケーション

安全な運転を行うためには、自車の意図を相手に確実に伝えることが必要ですが、言葉による会話がほとんど不可能な車の運転においては、ウインカーなどの車の装置や手ぶりを活用した「カーコミュニケーション」を積極的に図ることが重要なポイントになります。

カーコミュニケーションの基本はウインカー等による合図ですが、それ以外にも安全を確保し円滑な交通を保持するうえで有効な方法がありますので、そのいくつかを紹介しましょう。

ポンピングブレーキで減速や停止を伝える

徐行や停止をするときは合図を出すことが義務づけられていますが、ブレーキと制動灯は連動していますから、ブレーキを踏めば合図を出していることとなります。しかし、それは必ずしも合図を出すという意図のもとに行われている行為とは言い切れません。減速や停止を後続車に知らせるという明確な意図をもって合図を行うためには、ブレーキを数回に分けて踏む「ポンピングブレーキ」を活用するのがよいでしょう。



ヘッドライトで自車の存在を知らせる

自車の意図を相手に伝えることだけでなく、積極的に自車を相手に気づかせるということも重要です。その方法として、ヘッドライトの活用があります。例えば、降雨や霧などで昼間でも視界が悪いときや周囲が暗くなる夕暮れ時には、早めにヘッドライトを点灯して自車の存在をアピールしましょう。



道を譲るときは手ぶりで合図する

カーコミュニケーションの手段は、ウインカーやヘッドライトなどの車の装置ではありません。場合によっては、身ぶりや手ぶりが有効なときもあります。特に相手に道を譲るときは、完全に停止して周囲の交通状況を確認したうえで、手ぶりで「どうぞ」と合図するのがよいでしょう。また、自車が道を譲られたときは、自分の目で安全を確認したうえで進行し、軽く手をあげて感謝の意を表しましょう。



<ハザードランプでのコミュニケーションについて>

近年、道を譲ってくれた車に対してハザードランプを点灯し、感謝の意を示す方法がとられることがあります。しかし、ハザードランプは、道路交通法上では「非常点滅表示灯」といい、本来は夜間の駐車時等に使用されるものです。したがって、ハザードランプが感謝の挨拶代わりに使用されることが慣例化していない地域では、ハザードランプの意味が相手に伝わらず誤解を招くこともありますから注意しましょう。

「ご相談・お申込先」